

静岡県平成19年度地域非行防止セミナー 万引犯罪防止の社会的意義

平成19年7月3日

於 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

NPO法人全国万引犯罪防止機構 理事 事務局長

東京都「子どもに万引をさせない連絡協議会」委員・東京都「中学生職場体験推進協議会」委員・日本EAS機器協議会総務委員長・おやじ日本会員

福井 昂

NPO法人全国万引犯罪防止機構

平成17年6月23日設立 翌年1月23日NPO法人全国万引犯罪防止機構として登記完了。日本の治安が崩れている今、犯罪の根っこにある「万引犯罪」撲滅のために、全国の各組織を結ぶ横糸の役割を狙い、情報を一元化して再度各組織に情報の発信を行うセンターとして、かつ、全国の声や悩みを一つにまとめて、大きな声として建議提言を行う。

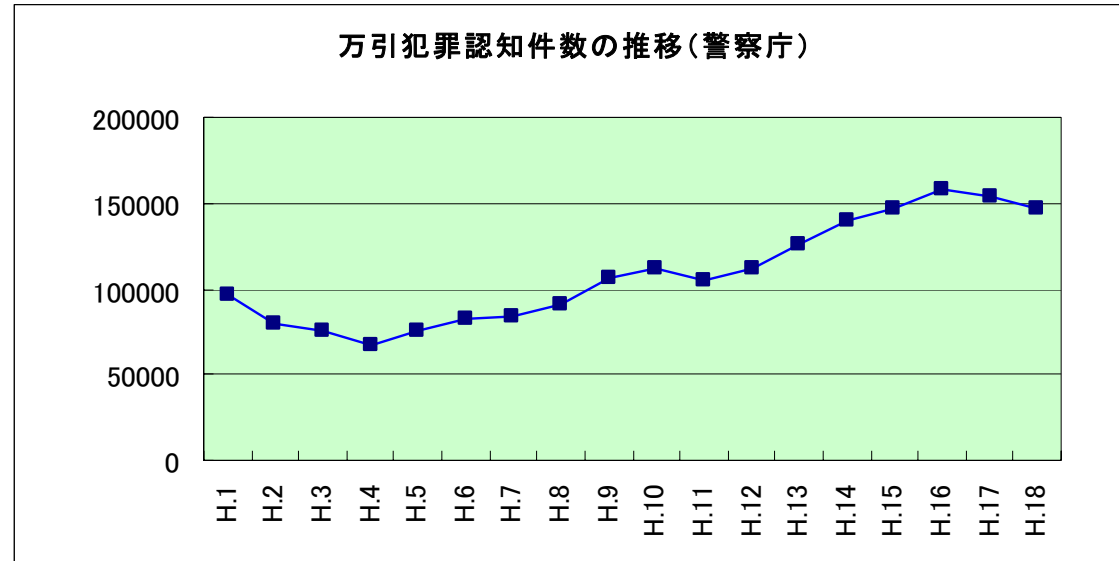


1. 万引犯罪

① 警察庁の認知件数推移

平成18年5月25日施行
刑法235条
10年以下の懲役もしくは
50万円以下の罰金となった。

2年連続減少したが
大量・集団・外国人・高齢者・換金



② 万引犯罪とは

- * 一般認識“たかが万引”? ⇔ 犯罪の根っこ
- * 青少年の健全育成を阻害 ⇔ 大きな社会問題
- * 小売店の経営を阻害 ⇔ とんでもない経済問題
- * 各地区・各業界等縦割り ⇔ 社会全体での対峙
- * 日本社会の縮図 ⇔ 大人社会の在り方

2. 社会の縮図

- ① 青少年 : 大人の鏡 たかが万引ではない=犯罪の根っこ
- ② 外国人 : 日本の人口減・国民的合意?
- ③ 高齢者 : 急激な高齢化社会・青少年の見本になろう・なぜ高齢者だけ集める?
- ④ 換金 : 中古ショップの増加 ・インターネットオークション
- ⑤ 経済問題 : セルフ販売の危機
- ⑥ 社会構造: * 縦社会.....横社会
 - * 価値観.....自分中心 ・社会のルール ・ <見つからなければ>
 - * 権力者? ...報道関係 <子供が見ている>
 - * 対処療法では、国も地方も もたない

3. 全国調査

1. 万引に関する全国青少年意識調査

47都道府県の小学校5年生50人、中学校2年生・高校2年生各100人

回収：小学校：44校(93.6%)、2501票(106.4%)

中学校：43校(91.5%)、4318票(91.9%)

高校：45校(95.7%)、4518票(96.1%)

計 132校(93.6%)、11,338票(96.5%) <131校、11433票>

2. 全国小売業万引被害実態調査

セルフ販売を採用している企業の本部を調査対象にした。

発送868社<896社> 不明・対象外・統合・回答拒否等21<26>

有効数837社<870社> 有効回収401社(47.9%)<412, 47.4%>

4. 万引に関する全国青少年 意識調査

1. 小学生では99.4%が万引とは何かを知っている。

テレビで知ったが8割である。

2. 絶対やってはいけない・・・小学生:96.5% < 95.2% >

中学生:84.6% < 83.2% > 高校生:80.0% < 80.9% >

3. 友達に誘われた経験・・・小学生:5.8% < 4.9% >、

中学生:8.1% < 9.6% >、高校生:15.7% < 14.0% >

4. 万引する理由:その品物がほしいから・・・小学生:87.4% < 88.4% >

中学生:78.8% < 79.9% >、高校生:71.4% < 69.7% >

5. 捕まった時:低学年:家に連絡される。高学年:学校に連絡される。

6. 万引品を売ることへの意識:聞いたことがない・・・小学生:88.3% < 87.

3% > 中学生:84.5% < 81.3% > 高校生:71.7% < 71.7% >

7. お店の万引対策の認識

小学生：監視カメラ95.2%、ポスター57.2%、万引防止機45.8%

中・高校生：万引対策をしている店であることのPRする。67%～68%
挨拶や声掛け45%～49%

8. 子どもが万引をしなくなる対策

「家庭のしつけ」小学生66.2%＜68.6%＞中学生56.3%＜52.8%＞
高校生50.0%＜47.7%＞

「授業でやる」小学生60.0%＜61.3%＞中学生50.5%＜52.2%＞
高校生32.3%＜30.2%＞

「万引しづらい店づくり」小学生53.3%＜56.1%＞
中学生56.4%＜57.6%＞高校生55.8%＜58.3%＞

9. 店が万引した少年を捕まえたら、警察の引き渡すべきか

「そう思う」中学生82.7%＜80.0%＞高校生76.7%＜76.1%＞

10. **学校に連絡**することに対する意識 学校に連絡すべきである。
そう思う・・・中学生85.7%＜84.8%＞ 高校生78.2%＜73.7%＞
11. **保護者の引取り**に対する意識 引き取りにくるべきである。
そう思う・・・中学生93.2%＜92.3%＞ 高校生91.1%＜91.0%＞
12. 連絡を受けた**親は直ちに引取り**に行くべきか 直ちに行くべきである。
そう思う・・・中学生94.0%＜92.3%＞ 高校生93.4%＜91.0%＞
13. **親の指導**に対する認識 親は万引をした子どもに対し厳しく指導すべきである。
そう思う・・・中学生88.4%（86.9%） 高校生87.2%＜87.6%＞
14. **店舗に対する対応**の認識 万引した子や親はどのようにすべきだと思いますか。
買取る・・・中学生30.8%＜33.1%＞ 高校生32.1%＜33.6%＞
取りと迷惑料・・・中学生42.3%＜38.2%＞ 高校生31.0%＜30.5%＞
その場で謝罪・・・中学生29.6%＜30.0%＞ 高校生22.3%＜19.7%＞
社会貢献する・・・中学生28.9%＜29.5%＞ 高校生26.8%＜25.4%＞

5. 社会全体での対峙

① 万引をさせない店舗づくり

* **小売業の社会的責任** = 自分のお店からは絶対万引犯罪は起こさせない
地域社会の安全を守るために中心になって活動

企業倫理 = **社長の明確な方針のもと、強い信念と地道な努力が求められる**

* **地域力** = 小売店・学校・PTA・町内会・役所等々の連携による。「おはようございます」
「こんにちは」「今晚は」「元気ですか」等の声が飛び交う元気な街造り

* 防犯ポスターの掲示・死角・隙間・溜まり場を作らない = **割れ窓理論**

* **防犯機器を導入する** ⇔ **導入を機に社内の防犯体制の構築を図る**

② 万引一掃の教育・キャンペーンの強化

* 学校・PTAは非行防止教室等で万引について徹底して教える
⇒ 教育用パワーポイント・教育用ビデオ等

* キャンペーン等を活用し、万引防止について徹底的に啓蒙する
⇒ 全国共通ポスター・POP 等

* **家庭・地域**
⇒ 明るい元気な地域づくり

③ 万引発見の徹底

* 小売店・商店街は、万引きと疑わしき不振な行動をとる者に、声掛けや注意を実施し、万引の機会を未然に防ぐ

④ 万引を繰り返さない仕組みづくり

小売店は、**青少年**の万引を発見した場合は、警察・保護者に連絡する。学校が判明した場合は学校に連絡する。小売店・警察・学校・保護者が連携し、それぞれの役割を果たす

大人の場合は、法律に従う＝刑法235条：窃盗罪は10年以下の懲役もしくは50万円以下の罰金

<警察への通報ルール・処理ルールの標準化が求められる>

⑤ 万引物品の販売防止

古物商は、万引品と疑わしき物を買取らない店であることを明示する。各行政の条例等を順守し、18歳未満の者から古物を買取る時は、保護者の同伴または同意確認を徹底する。

<古物の買取での、1万円ルールの見直しの要望が出ている>

⑥ 関連機器の開発

タグを含めたEAS機器システムの信頼性UP、更に、カメラシステム・来客カウンター・POSシステム・携帯電話等々を組み合わせた、その店に合ったシステムの構築と機種との統合等が考えられる。

地域のアラートシステム等の構築が急がれる。

⑦ その他

ピック病・現状の把握(罰金刑の適用状況・再犯率・万引品の再販率等)……

6. 万引犯罪は**軽い犯罪ではない**！

- ① たかが万引ではない。
- ② 万引犯罪が**犯罪の根っこ**にある。
- ③ 万引犯罪撲滅が、**安全・安心な日本**を取り戻すことになる。
- ④ **対処療法ではなく、本手を打つことが重要**。
- ⑤ 各地域が**地域力**を高め、**明るい・元気な地域**を造ることが、**最優先課題**である。
- ⑥ **小売業**が率先して推進することが**社会貢献**につながる。

見直したいね「声かけ」の力

山口県の17歳女子高校生の声(朝日新聞H18. 12. 21)

青少年の自殺や犯罪が目立つ中、「声かけ」の重要性が見直されている。自殺を考えていた少女が近所の人からあいさつをされて我に返り、自殺を踏みとどまったことがあったらしい。私の周りでも声をかけてくれる人たちがいる。毎朝登校中にあいさつをしてくれる人や「勉強を頑張れ」とお菓子くれた人、経験を語りアドバイスしてくれた人もいる。知らない人なので初めは身構えたり、怪しいと感じたりするかも知れない。

しかし、話を聞くことで視野が広がるし、笑顔で声をかけられると、がんばろうと思え、うれしい気になる。「声かけ」は犯罪や自殺防止だけでなく、人とのかかわりをふやし、喜ばせる力もあると思う。人とのかかわりで得ることは少なくない。それを無視するのではなく、時には自分から「声かけ」をする努力をしたいと思う。

乙女の挨拶で爺もはつらつ

新潟県の67歳無職の男性の声(朝日新聞H19. 6. 16)

私は週に2～3回、朝9時ごろ、ある高校の近くを用事のため自転車で通ります。ちょうど女子生徒が元気よく校舎の周りをランニングしているところに出会います。すると次々に「おはようございます」「こんにちは」と気持ちのいい挨拶をしてくれます。

私も若い頃マラソンをしましたので、ランニング中に気合いを入れるための掛け声はできるが、挨拶となると大変です。呼吸が乱れ、リズムが狂います。

それを見知らぬ爺に元気のいい挨拶をして下さる。

何と微笑ましい光景でしょう。とかく最近の若い人たちは礼儀を知らない、何かあっても怖くて注意できない、と聞きます。でも私はこの学校の指導方針や先生方の明るい人間性が頭に浮かびます。

またその指導を素直に受け入れ、実行している生徒さんたちは、家に帰っても、どこでも**明るい太陽**のような存在ではないかと想像いたします。

勇気を実行に移すということは簡単にできるものではありません。乙女たちは必ず立派な社会人になってくれると思います。